

わかちあいプロジェクト

NEWS No.1

1993 APRIL

内戦で両親を
失い数百キロの
旅路を歩んで
やっとケニアの
難民キャンプ（カクマ）に
たどりついた
スーダンの少年

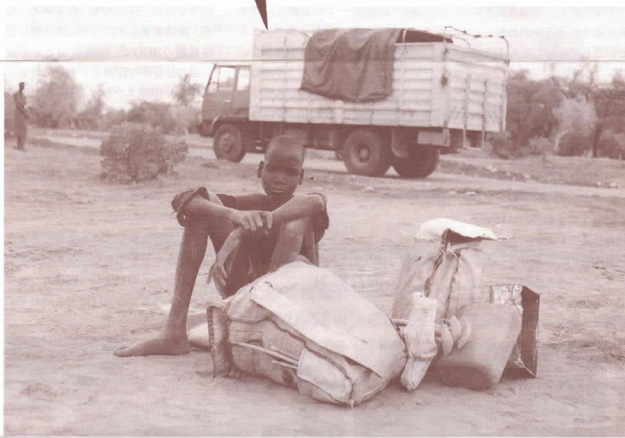


Photo: John Parker

わかちあう心

わかちあいプロジェクト代表 宝珠山幸郎

私たちの体に、口があり、耳があり、目があることは、人間はひとではなく、他と共に生きる存在であることが本来的に示されています。キリストが、「自分を愛するように隣人を愛しなさい」と言われ、また、愛の神は「ご自身に似せて」人間を造られた、との聖書の表現には、人間の向かわべき在り方が告げられています。

裏から言えば、その愛が未だ私の心に生れていないならば、「共に生きる」とは、本来の人間の姿を取り戻し、その在り方を全うさせる言葉です。それは、他人のためという働きを持つ言葉であるように見えますが、実は自分のため、人間としての自分の真実を全うするか、どうかとの「自分へ」の言葉です。

戦争前後、食べるにも重なるにも事欠いて貧しかった時代、私たちは

自分の愛を満たすことで精一杯で、他を顧ることなく生きて来たはずならば、そして豊かな今も、中絶は旧態依然として「自分を満たすこと」ばかりを追求し続けるなら、死ぬまで、私たちは人間らしく生きることが出来なないでしょう。

「愛とは、相手のために時間を費し、エネルギーを費し、お金を費す」こと以外にはありません。従って、狭くちがちな自分の心と戦う意志の世界が伴うのが愛です。

アジア、アフリカ、また他の国や国内の例外的な場所で見られる事情から、私たちの眠っていた心が醒め、本来的な人間の姿に向う道を私たちに教えてくれる心、それが「わかちあう心」です。その心を、具體的な姿として表示するひとり、お互いとなりましょう。

わかちあいプロジェクト 発足の経緯

松木 傑 事務局長

今から10年前の1983年夏に日本のキリスト教会と西ドイツの教会の代表が伊豆に集まり、「平和と援助」をテーマに会議が開かれました。

その時、私は絵本を通して子供たちにアジアとアフリカのことを知らせることができないかと考えていたので、さっそく、ドイツからの参加者にそのような絵本があるかどうか尋ねたところ、あるとこのことで紹介してもらうことになった。

絵本出版の費用についてもドイツの教会の開発奉仕の部門から支援をえられ、さまざまな曲折と多くの人の協力により、最初の絵本、「キタはインドの女の子」が1986年に出版されました。2冊めの「ムラホー こんにちわーアフリカのともだちをたずねて」は1986年12月、3冊めの「ちいさいおどりコートウ」は1988年に出版しました。いずれもドイツ、スイスの翻訳のものでしたので、オリジナルを作るよう努めましたけれど実現していません。

一応の目的がたされたので、残金を新しい形で用いることにし、発展途上国の産品購入によりその国と人々を知り、支援することを目的に「わかちあいプロジェクト」を昨年8月から開始することにしました。

これも昨年2月、米国とドイツを訪問するなかで、多くの人に教えられ助けられたGPEA（第三世界との協力促進協会）からシランカ有機栽培紅茶を扱うことから始まりました。

とくに輸入元のスタッセン・ジャパンのヘンリー・ダイヤスさんの協力で感謝しています。



「ムラホー こんにちわー」だけが在庫があります。送料込
み1500円 注文していただけます。お送りいたします。



LWS (ルーテル世界奉仕部) について

LWSはルーテル系世界連盟(LWF)の奉仕団体を
集めるから、文庫刊のWFL(LWS)とは異なるので
ご注意ください。

ヘンリーさんの紹介で第一コーヒーの高橋さんにお会いし、運動の趣旨に賛同していただきコーヒーの取扱が可能となりました。

メキシコのマヤの人達のグループはGPEAに紹介してもらった生産者のリストから選んだものです。

TransFairのシールの運動は、昨年のドイツ訪問のおり、シュツットガルトで、マルティン・クツツ博士にお会いし、彼がその計画を紹介してくれたことに始まります。彼はそのときドイツの教会が、「ただ援助するのではなく先遣国のあなただちの意識変革が必要ではないか」との途上国の人たちの指摘に応じて設置した開発教育部門の責任者でした。

ソマリア募金への 取り組み

昨年東アフリカのソマリアの内戦による厳しい飢餓状況が、報道されました。ソマリアの問題が表面化する以前から、スーダンの内戦による緊急事態に私たちの協力団体であるルーテル世界連盟・世界奉仕部(Lutheran World Federation, Department of World Service)は、取り組んでいます。

そして5月14日から、ケニアのナイロビとモンバサを拠点に、ソマリア各地にむけて救援物資の空輸を開始しました。

遠く離れた地の悲惨な状況にたいしてなすすべも無いなかで、私たちは仲間が取り組む空輸のための募金を広く呼びかけるため東アフリカ救援事務局の活動を始め、ソマリアのビデオの制作やコンサートなどを行いました。



LWSカンボジア、プログラム代表のノルベルト・クイン生は、10年東京に滞在し、日本の宗教を研究した学者でもある。

わかちあいプロジェクトは、募金と産品販売収入を車輪の両輪として、支援活動をすすめます。

